

競技規則改正の概要

主な改正および明確化された点の概要を示す。

第1条

- チーム役員は、RRAに入れば警告(YC)され、VORに入れば退場(RC)を命じられる。

第3条

- 交代で退く競技者は、主審から指示された場合を除き、境界線の最も近い位置からフィールドを出なければならない。

第4条

- シャツの各袖とまったく同じマルチカラーや色の柄のアンダーシャツの着用は、認められる。

第5条

- プレーが再開されたならば、主審は再開時の判定を変えることはできない。しかし、ある状況下であれば、プレー再開前の事象のためにイエローカード/レッドカードを示すことができる。
- 主審がVARレビューのために、また、各ハーフの終了時に競技者を呼び戻すためにフィールドから出た場合でも、判定を変えることができる。
- チーム役員が不正行為に対してイエローカード/レッドカードを示すことができる。もし不正を働いた者が特定できなかったならば、テクニカルエリア内により上位のコーチにイエローカード/レッドカードが示される。
- ペナルティーキックが与えられた場合、そのチームのペナルティーキックを行うキッカーは負傷の状況の確認や治療を受けることができ、そのままフィールド内に留まり、キックを行うことができる。

第7条

- “クーリングブレーク”と“飲水タイム”的違いを明確化した。

第8条

- トスに勝ったチームは、キックオフも選ぶことができる。
- ドロップボール — (プレーがペナルティーエリア内で止められたならば)ボールはゴールキーパーにドロップされる。または、最後にボールが触れられた位置で、最後にボールに触れたチームの1人の競技者にドロップされる。(両チームの)その他すべての競技者は、ドロップの位置から4m(4.5ヤード)以上離れなければならない。

第9条

- ボールが主審(または、その他の審判員)に当たり、ゴールに入ったり、攻守が変わったり、あるいは、それにより新たな攻撃が始まった場合、ドロップボールとする。

第10条

- ゴールキーパーは、相手ゴールにボールを投げ入れて得点することができない。

第12条

- ハンドの反則に関する文章が修正され、“意図なく”ボールが手に当たったときに“反則とする”(反則としないのか)場合のガイドラインがより明確になって、より明瞭で一貫性あるものとなった。
- ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内で“不正に”ハンドの反則を犯した場合、イエローカード/レッドカードにならないことが確認された。
- ゴールキーパーがチームメイトからのスローインや意図的にパスされたボールをけつたりプレーに戻そうとしたものが失敗した場合、その後、ボールを手で扱って良い。
- 主審は、反則を受けたチームがクイックでフリーキックを行い、得点の機会を得た場合、次にプレーが停止されるまで、イエローカード/レッドカードを示すのを待って良い。
- その後得点が認められなかった場合でも、“不適切な”得点の喜びに対するイエローカードは消えない。

- ・ チーム役員が注意を与えられる、また、イエローカード/レッドカードを示される反則をリストアップした。
 - ・ 言葉による反則は、すべて、間接フリーキックで罰せられる。
 - ・ 物をけりつけることは、物を投げつける反則と同じ方法で罰せられる。

第13条

- 主審は間接フリーキックが行われた後、直接得点につながらない（例えばオフサイドによる間接フリーキックが最たるもの）ことが明らかになった場合、間接フリーキックとして上げた腕を下ろして良い。
 - ペナルティーエリアからの守備側チームのフリーキックが行われるとき、けられて明らかに動いたならばボールはインプレーとなる。ペナルティーエリアを出る必要はない。
 - 守備のための“壁”が3人以上の競技者で作られたならば、すべての攻撃側競技者は“壁”から1m以上離れなければならない。1m以内に侵入したら、相手の間接フリーキックとなる。

第14名

- ペナルティーキックが行われるとき、ゴールポスト、クロスバー、ネットは動かされていないこと、また、ゴールキーパーがこれらに触れていないこと。
 - ゴールキーパーは、ペナルティーキックが行われるとき、少なくとも片足をゴールラインか、ラインの上方に置いていなければならない。ラインの後方にいることはできない。
 - 主審がペナルティーキックを行うよう合図をしたが、キックが行われる前に反則が犯された場合、イエローカード/レッドカードを示した後にキックが行われなければならない。

第15集

- 相手競技者は、例えスローワーがラインの後方にいたとしても、スローインが行われるタッチライン上の位置から2m以上離れなければならない。

第 16 集

- ゴールキックのとき、けられて明らかに動いたならばボールはインプレーとなり、ペナルティーエリアから出る必要はない。